

2026
～
2028

Tokyo Waterworks Management Plan

東京水道経営プラン 2026 (案)

～ともに未来へつなぐ、
安全・安心な東京の水道～

経営プラン2026の策定に当たって

都の水道事業は、明治31年に近代水道として通水を開始して以来、最も重要な基幹ライフラインとして、都民生活と首都東京の都市活動を支えてきました。

これまで、高度経済成長期の需要拡大に対応した施設の整備、河川の水質悪化に伴う高度浄水処理の導入など、時代に合わせた施策を推進し、現在では水道の根源的使命である、安全でおいしい高品質な水の安定供給を実現しています。

一方、水道事業を担う人材の不足、頻発化・激甚化する風水害や世界情勢に起因するエネルギー価格の高騰、将来的な人口減に伴う料金収入の減少など、水道事業を取り巻く環境は不確実性を増すとともに、AIをはじめとするテクノロジーが予想を超える速さで進化するなど、社会状況の変化のスピードも加速しています。

このような中にあっても、お客さまへの安定給水の継続はもとより、高度経済成長期に集中的に整備した大規模浄水場等の更新や、気候変動など深刻化する環境課題への対応等、都が目指す「2050東京戦略」に掲げたビジョンの実現に資する、将来を見据えた取組を進めていくことが、首都東京を支える水道事業者としての役割であると考えています。

こうした状況を踏まえ、今回、令和8年度から10年度までの事業計画と財政計画を定めた「東京水道経営プラン2026」を策定しました。

水道は、単なるインフラではなく、世代を超えて引き継いでいくべき「地域の共有財産」です。

今後とも基幹ライフラインとしての使命を全うしていくため、本経営プランに基づき、ハード・ソフト両面から強靱な水道の構築や、水道スマートメータの導入拡大などDXによる業務の効率化、一層の環境施策の推進などに取り組んでいきます。

また、積極的な情報発信や双方向コミュニケーションの拡充など、お客さまとのつながりの強化を図っていきます。

さらに、不断の経営努力などによる安定的な財政運営、政策連携団体への業務移転や人材育成など、水道事業を支える基盤の強化を図るとともに、本経営プランの実効性を高め、説明責任を果たすため、目標管理を徹底していきます。

お客さまとの信頼関係の下、東京水道グループの総力を挙げて強靱な東京の水道を構築し、持続可能な水道事業運営を進めていきます。

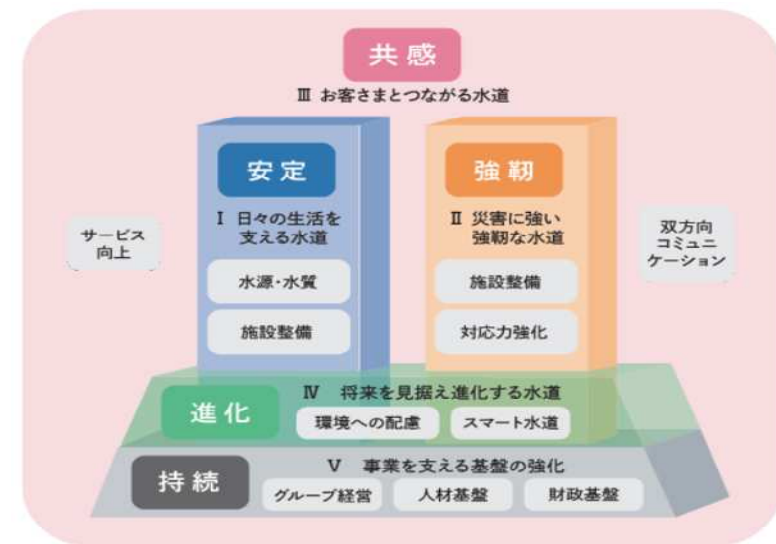
東京都水道局長 山口 真

東京水道長期戦略構想2020^(※)で掲げた基本理念

- 都民生活と首都東京の都市活動を支える基幹ライフラインとして、安全でおいしい高品質な水を安定して供給していきます。
- 時代に即した技術やサービスを取り入れ、お客さまから信頼が得られる事業運営を進めていきます。
- 都の広域水道としての一体性と責任を確保しつつ、経営基盤の強化を図り、健全な経営に努めていきます。

経営プラン2026における経営方針

- 安全でおいしい高品質な水の安定供給により、将来にわたり、都民生活と首都東京の都市活動を支えていきます。
- この実現に向け、次の3つの取組を進めていきます。
 - 着実な施設整備や徹底した水質管理等に取り組むとともに、施設の耐震化や災害発生時の対応力向上など、水道の強靱化を進めます。
 - お客さまとの双方向コミュニケーションの充実により信頼関係を深め、「地域の共有財産」である水道を将来に引き継いでいきます。
 - グループ経営の推進や人材の育成、不断の経営努力に取り組むとともに、環境施策の一層の推進やDXによる業務の効率化など、将来を見据えて水道事業を進化させていきます。



経営プラン2026の位置付け

この経営プランは、「東京水道長期戦略構想2020」で掲げた目指すべき将来の姿を実現するため、令和8年度から10年度までの3年間に取り組む施策の事業計画と財政計画を明らかにした中期経営計画です。

※東京水道長期戦略構想2020:

東京水道が目指すべき将来の姿と、その実現に向けた取組の方向性を示す、おおむね2040年代を見据えた基本構想であり、今後の事業運営全般についての基本的な方針